

# 日本ビジネス航空協会 会報

2018年9月号 (隔月刊)



**JBAA** JAPAN BUSINESS AVIATION ASSOCIATION  
一般社団法人 日本ビジネス航空協会

## CONTENTS

- ◇ ビジネス航空業界のトピックス・新着情報 3 ページ
- ◇ 協会ニュース 4 ページ
- ◇ 会員紹介 … 仙台国際空港株式会社 6 ページ
- ◇ 入会案内 12 ページ

### 【表紙写真】 Bombardier Global Express

この機体は、以前某有名サングラスメーカーが社有機として保有してしていました。遠目に見ると機体にリベットが打ってあるように見える奇抜な塗装(ラッピングでしょうか?)。

現在この機体は世界地図の絵柄をまとって活躍中とか。この新塗装機は今年の4月に羽田空港にも飛来したようです。

## ◇ ビジネス航空界のトピックス・新着情報

### HondaJet、2018 年上半期のデリバリー数で記録達成

8月7日、ホンダ エアクラフト カンパニー（以下、HACI）は、「HondaJet」の2018年上半期（1～6月）デリバリー数が17機となり、小型ジェット機カテゴリにおいて最多数を達成したことを発表しました。これは、2017年上半期と2017年暦年に続き、世界トップの記録となったことを同社のホームページで発表しました。

また、2018年5月に発表したHondaJetの新型「HondaJet Elite（エリート）」について、日本では2018年6月6日の受注開始以降、約2ヵ月で10機を超える好調なスタートとなり、HondaJet Eliteの納入は8月より米国で開始し、今後欧州や中南米、アジアなどにも順次納入を拡大していくこと。また、日本においては2019年前半に型式証明の取得を見込んでいて、その後納入を開始する予定であることもリリースしています。

(HACI プレリリースから抜粋)



HondaJet Elite (HACI HP から)

### 「航空機検査制度等検討小委員会」が検討項目と見直しの方向性をとりまとめ

国土交通省交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会に設置され、本年3月から7回に渡って検討が重ねられてきた、同小委員会（オブザーバーとしてJBAAが参加）は8月1日、検討項目と見直しの方向性をとりまとめました。

今後は、項目の詳細検討を行い、2018年末に小委員会から技術・安全部会に報告し、2019年以降に具体的施策を実施することとしています。（詳細は国土交通省のホームページを参照ください）

### 「東京2020オリンピック・パラリンピック大会期間中におけるビジネスジェットの受入対応に関する意見交換会」が開催されました

航空局政策企画調査室が主催による同意見交換会が7月19日に開催されました。本意見交換会は、大会期間中における首都圏空港、地方空港への回航や二次交通の環境などに関する懸念事項や課題を確認することを目的に設置されました。ビジネスジェットのグラウンド

ハンドリング事業者を中心に15社が参加してハンドリング上の課題や留意点などについて意見交換を

行いました。尚、この意見交換会は今後も継続して実施されます。

### 「東京2020オリンピック・パラリンピック大会期間中における政府専用機・ビジネスジェットの受入対応に関する意見交換会」が開催されました

航空局政策企画調査室が主催により、7月23日に開催された意見交換会は、関係する組織、団体による大会期間中における政府専用機及びビジネスジェットの受入れ対応について意見や課題を集約して対応の具体化を図ることを目的としています。

参加するメンバーは以下の通りです。

- ・国土交通省航空局
- ・(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
- ・内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局
- ・関係官庁： 外務省大臣官房人物交流室
- ・地方自治体： 東京都
- ・民間団体： (一社)日本ビジネス航空協会、定期航空協会、(一社)全国空港ビル協会
- ・空港会社等： 成田国際空港(株)、東京国際空港ターミナル(株)

\*その他、必要に応じて追加する

## ◇ 協会ニュース

### 今年もNBAA-BACE 2018に出展します

10月16日～18日にフロリダ州オーランドで開催される、NBAA-BACEに今年も出展をします。今回の出展は愛知県、成田国際空港(NAA)、東京国際空港ターミナル(TIAT)、JBAAの4者で日本ブースを構成します。初出展となるTIATの参加により、成田と羽田の首都圏空港の存在のアピールが可能となりました。尚、JCABは政策企画調査室から出張ベースで現地に出向いて活動をしていただく予定です。

### 主要協会活動(7-8月)

7月3日 第7回航空機検査制度等検討小委員会が開催され、菊池事務局次長が出席しました。

7月19日 航空局政策企画調査室主催の「東京2020オリンピック・パラリンピック大会期間中におけるビジネスジェットの受入対応に関する意見交換会」が国

土交通省で開催されました。協会から田村副会長、森崎事務局長が出席しました。

7月23日 航空局政策企画調査室主催の「東京2020オリンピック・パラリンピック大会期間中における政府専用機・ビジネスジェットの受入対応に関する意見交換会」が国土交通省で開催されました。協会から田村副会長、東山常務理事、森崎事務局長が出席しました。

8月1日 森崎事務局長、菊池事務局次長が、航空機検査制度等検討小委員会に出席しました。(上述)

8月6日 平成30年度第4回理事会を開催しました。

8月27日 岡田会長、森崎事務局長が大野航空ネットワーク企画課長を訪問し、オリンピック・パラリンピックへの対応や、協会が進める企画概要の説明等について説明と協力依頼を行いました。

## ◇ 会員紹介

### 仙台国際空港株式会社

仙台国際空港株式会社は、2016年7月1日に国管理空港として初めて民営化された仙台空港を運営する特別目的会社（SPC）で、東急電鉄、前田建設、豊田通商など7社によって設立されました。

#### 【会社概要】

会社名	仙台国際空港株式会社 (Sendai International Airport Co., Ltd.)
代表者	代表取締役社長 岩井 卓也
所在地	宮城県名取市
設立	2015年11月2日
資本金	42億円
従業員	156名 (2018年8月現在)
出資比率	東京急行電鉄株式会社 42%、前田建設工業株式会社 30%、 豊田通商株式会社 16%、東急不動産株式会社 9%、 株式会社東急エージェンシー・東急建設株式会社・ 株式会社東急コミュニティー 各1%

#### 【仙台空港の概要】

滑走路	2本 (A: 1,200m x 45m、B: 3,000m x 45m)
駐機スポット数	14
運用時間	7時30分～21時30分 (14時間)
就航都市	国内線 11都市：札幌 (新千歳)、成田、名古屋 (中部)、小松、 大阪 (伊丹・関西)、神戸、広島、出雲、福岡、那覇 国際線 4都市：ソウル、上海、北京、台北



仙台空港外観



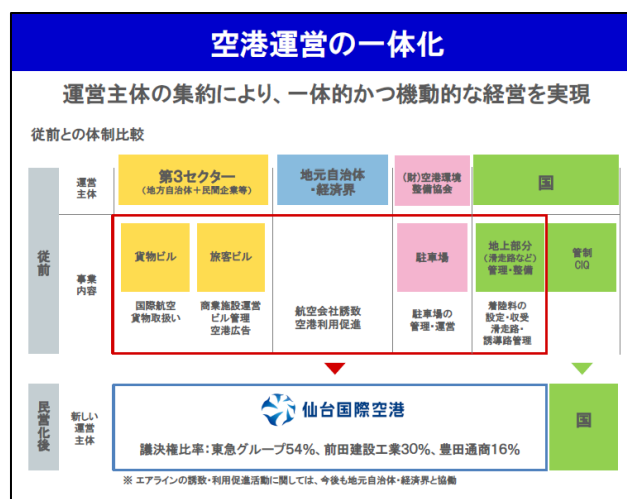
路線図 (2018年8月現在)

## 1. 仙台空港民営化の背景

2011年3月、未曾有の大震災が東北地方を襲い、震災前から進行していた人口減少や少子高齢化に拍車をかけました。そこで、東北復興の絶対条件である「交流人口の拡大」の起爆剤として推し進められたのが東北の空の玄関口である仙台空港の民営化です。

## 2. 空港運営の一体化

民営化以前の仙台空港は、滑走路や航空管制などの航空系事業は国が、空港ビルや駐車場などの非航空系事業は自治体が出資する第三セクターなどが運営しており、運営・経営主体がバラバラで効率性に欠けていました。そこで、仙台空港民営化で採用されたのが、基本施設の所有権を国に残したまま民間に運営権を設定し、航空系・非航空系事業を一体経営する「コンセッション方式」です。民間のノウハウで空港を一体経営することで、より柔軟で機動的な戦略を航空路線の拡充や空港利用者の増加に活かすことができます。



**仙台空港の旅客数・貨物取扱量実績と目標値**

年度	実績			目標値	
	2015 (民営化前)	2016	2017	2020 (民営化5年後)	2044 (民営化30年後)
旅客	311万人	316万人	343万人 (過去最高)	410万人	550万人
国内線	295万人	293万人	315万人	362万人	435万人
国際線	16万人	22万人	28万人	48万人	115万人
貨物	0.7万t	0.7万t	0.7万t	1万t	2.5万t

### 3. プライマリー・グローバル・ゲートウェイ

民営化の目的を達成するために当社が策定したビジョンは、「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」です。「東北を発着する旅客に一番に選ばれる」、「東北で最も重要な航空貨物の拠点となる」という仙台空港の将来像をあらわしています。具体的には、民営化30年後の目標として「旅客550万人、貨物2.5万トン」を掲げています。この目標を達成するための柱となるのが「路線を増やし、航空需要を増やす」「空港活性化と設備投資」「サステナビリティの実現」の3つの施策です。それでは、これらの施策に基づいて、民営化後の主な取り組みをご紹介します。

#### 路線を増やし、航空需要を増やす

⇒旅客数増、貨物取扱量増、交流人口拡大の実現

##### (1) 航空ネットワークの拡充

路線誘致のため、地元経済界や東北各県の自治体とも協働し、エアライン本社への訪問や海外で開催されるエアラインとの商談会に参加し、積極的なエアポートセールスを展開しています。新規就航や増便の実現で、2017年度の旅客数は過去最高の343万人を達成しました。貨物については、創貨事業の一環として、七十七銀行、三井住友海上火災保険、日本通運、凸版印刷と協働して「東北・食のソラみち協議会」を立ち上げ、事業者を支援できる体制を整えました。そして、2017年4月、当社が中心となり「東北・食文化輸出推進事業協同組合」を設立し、東北の食品に関わる中小企業の海外への販路拡大を目指して共に輸出に取り組んでいます。当社では、今年度から貨物営業グループを新設し、創貨事業の増強を図っており、海外でのPRにも力を入れています。

##### (2) 料金施策

着陸料等の空港使用料に旅客数に応じて変動する料金の割合を増やし、需要変動リスクを軽減する料金体系や、新規就航や増便の際の割引制度も導入し、エアラインが就航しやすい環境を整えました。

##### (3) マルチモーダルハブ（二次交通、駐車場）

航空ネットワークと陸上交通ネットワークの円滑な接続に取り組んでいます。空港と仙台駅を結ぶ仙台空港アクセス線については、1日3往復（6本）の増発を実現しました。また、民営化以前は運行がなかった空港発着の高速バスは、現在5路線（秋保温泉・みちのく公園線、山形線、酒田・鶴岡線、福島・会津若松線、松島・平泉・花巻線）が運行され、東北各地の観光スポットと結ばれています。駐車場の取り組みとしては、駐車スペースの拡張に加え、ホームページでの満空



情報提供や予約サービスを導入しています。駐車料金も改定し、長期利用のお客様には割引、送迎など短時間利用のお客様には無料などお客様の利便性を考慮した料金を設定しています。

#### (4) 東北ブランドの発信

東北という言葉の認知度は海外ではまだ高くありません。素晴らしい観光資源が存在する東北の「四季のコントラスト」「伝統文化」「食の豊かさ」という魅力を地域と連携して発信しています。

### 空港活性化と設備投資

⇒「安心」「快適」「ホスピタリティ」で国内最高レベルの顧客満足度の実現

#### (1) 旅客ターミナルビルの改修

2017年4月、国内線到着エリアを大幅リニューアルしました。到着口に出ると、東北6県をあらわしたウェルカムウォールがお客様を歓迎します。「みちのく観光案内」（運営：JTB）では、東北6県の広域観光情報提供に加え、宿泊予約や鉄道・バス・航空チケットの交通手配などトラベルデスクの機能も兼ね備えています。インバウンド旅客向けのJRパスも取り扱っており、海外からのお客様の移動もサポートします。「みちのくラウンジ by PRONT」（運営：プロントコーポレーション）では、昼間はカフェ、夜はバーラウンジとしておくつろぎいただけます。一部、電源コンセントを備えた共用スペースとなっており、携帯電話の充電やパソコン作業が可能となっています。また、空港周辺でのランニングを楽しむエアポートランの拠点として、シャワールームやロッカー完備の「ランナーズポート」も新設されました。



1階到着エリア



ウェルカムウォール

## (2) 国内線保安検査場の改修

今年4月に実施した国内線保安検査場の改修では、検査手順を搭乗券確認と保安検査（旅客・手荷物）との2段階に分け、旅客の滞留を防ぎ待ち時間の短縮を図っています。また、空港のホームページや館内7か所に設置された大型ディスプレイで保安検査場の混雑状況を確認することができます。

## (3) インバウンド旅客への対応

全国的に伸びているインバウンド旅客の受入環境整備の一環として、国際線出発エリアのトイレを洋式化しました。また、多様な文化や習慣に対応するため礼拝室を設置しました。空港内の店舗スタッフを含む空港従事者向けに、おもてなし向上のためのグローバルな接遇を身につけるインバウンド研修も実施しています。海外からのお客様にもストレスを感じることなく安心してご利用いただける空港を目指しています。

## (4) ピア棟の新設

今年度最も大きなプロジェクトとなるのが、現在、旅客ターミナルビルの西側に建設中の「ピア棟」です。搭乗ゲートの増設により、より多くのお客様に対応することが可能となります。また、PBB（固定搭乗橋）を設置しないなど、運用コストを抑えたつくりは、新規就航や増便の需要を喚起するエアポートセールスにおいて仙台空港の強みとなると考えています。

## 高いサステナビリティの実現

⇒国業務の確実な引継ぎ、民間企業としての健全性を確保しながら持続的成長を実現

### (1) 地域共生事業・空港利用促進事業

環境負荷の低減や空港周辺環境対策事業（騒音対策等）を継続実施しています。また、地元の自治体や経済界と連携して航空需要の拡大や就航路線のPR活動に取り組んでいます。

### (2) 安全・保安体制

重大有責事故・事案の発生件数をゼロとすることを当社の安全目標とし、安全・保安の維持・向上を全てに優先しています。事案発生時の対応能力の向上と関係機関との連携を強化するため、定期的な訓練の立案・実施もしています。

## 4. ビジネスジェットについて

2019年に開催されるラグビーワールドカップ日本大会、そして、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、仙台空港におけるビジネスジェットの需要は飛躍的に高

まることが予想されますが、民営化された仙台空港にとってビジネスジェットの受け入れは新たな課題であり、現在は受け入れ体制等を研究している段階にあります。既存の商業路線の円滑な運営を維持しつつ、効率的な運営を実現することを目指し、今後、関係各所の協力を得ながら、前向きに検討していきたいと考えています。

#### 5. 「東北の空を、世界の空へ。」～Bringing the World to Tohoku～

仙台空港民営化の目的は東北の復興であり、運営会社である当社が担うミッションは、仙台空港を「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」に育て、東北の交流人口を増やし、地域経済の活性化に貢献することです。「東北の空を、世界の空へ。」というスローガンを掲げ、東北の創造的復興の一助となれるよう今後も取り組んでいく所存です。

最後に、JBAA 事務局の皆様には、仙台国際空港の取組みをご紹介できる機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

仙台国際空港株式会社

## ◇ 入会案内

当協会の主旨、活動にご賛同いただける皆様のご入会をお待ちしています。会員は、正会員（団体及び個人）と本協会の活動を賛助する賛助会員（団体及び個人）から構成されています。詳細は事務局迄お問い合わせ下さい。入会案内をお送り致します。

入会金	正会員	団体	50,000 円
		個人	20,000 円
	賛助会員	団体	30,000 円
		個人	1,000 円
年会費	正会員	団体	126,000 円以上
		個人	20,000 円以上
	賛助会員	団体	52,500 円以上
		個人	10,500 円以上



### (一社) 日本ビジネス航空協会 事務局

〒100-8691

東京都千代田区内幸町 2-1-1

飯野ビル 双日株式会社 内

電話: 03-6871-5107

Fax: 03-6871-3246

web: <https://www.jbaa.org>

e-mail: [jbaa@sojitz.com](mailto:jbaa@sojitz.com)